

◆今期間のポイント

＜主要じょう乱の概要＞

- 20日は、低気圧がサハリン付近に留まり、高気圧が黄海に移動する。
- 21日は、低気圧がオホーツク海に進み、高気圧が東日本付近に移動する。
- 22日は、低気圧が沿海州付近に進み、日本のはるか東の高気圧が東日本付近に張り出す。気圧の谷が東シナ海にのびる。
- 23日は、低気圧が千島近海に進み、高気圧が朝鮮半島付近に移動する。気圧の谷が東シナ海にのびる。
- 24日は、高気圧が北日本付近に移動し、低気圧が東シナ海に進む。

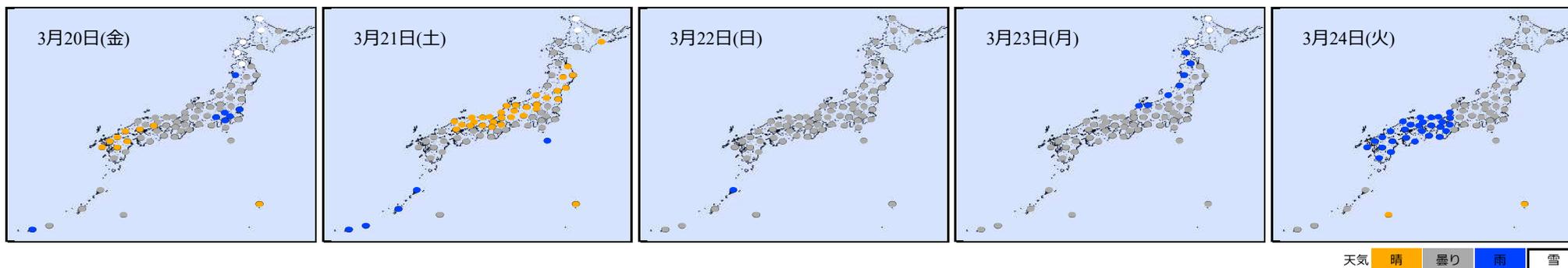
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

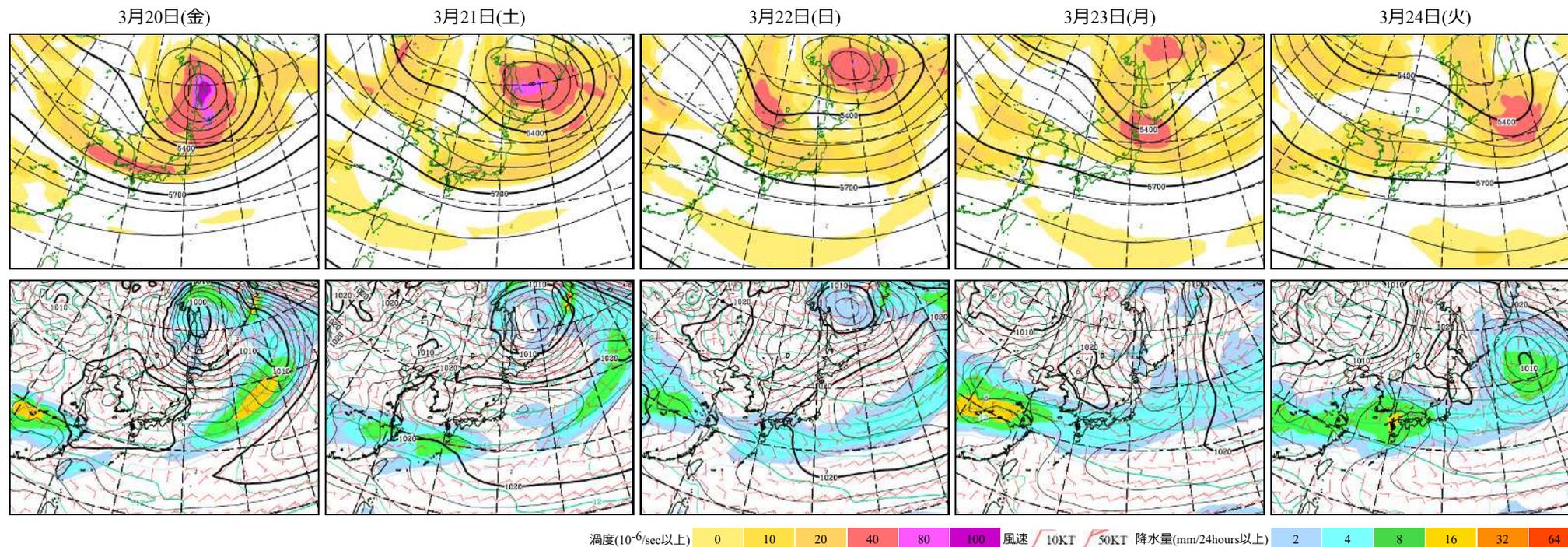
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

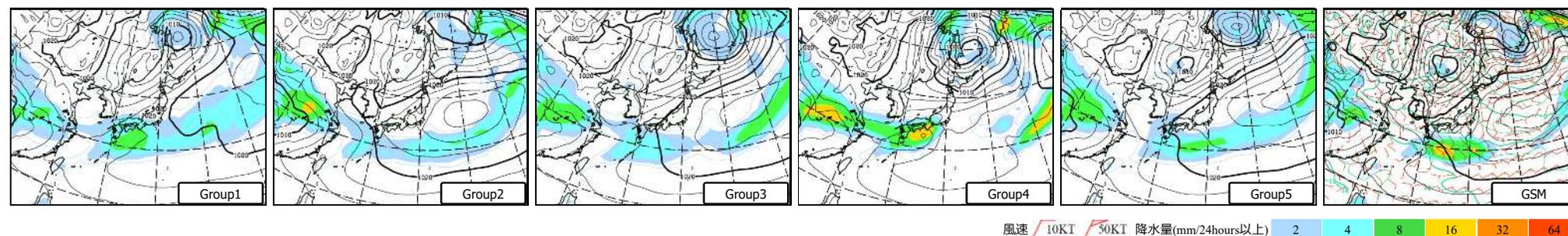


- 北日本と東日本日本海側は、曇りや雨または雪の降る日が多いが、21日は晴れる所がある。
- 東日本太平洋側は、雲が広がりやすく20日から21日にかけて雨の降る所がある。
- 西日本は、曇りや晴れの日が多いが、24日は雨の降る所が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆3月22日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、20日から22日にかけて東シナ海から日本の東に移動する高気圧が強くなった。22日から24日にかけて東シナ海の気圧の谷や低気圧が強くなった。
- 降水確率ガイダンスの値は、20日は北日本で大きくなった。21日は、北日本で大きくなり、西日本で小さくなった。23日は、東日本、西日本で大きくなった。
- スプレッドは比較的小さいが、期間の終わりは特定高度線のばらつきは大きい。
- 22日から23日にかけて、海外モデルでは日本の南岸に低気圧を予想するが、日本モデルでは明瞭ではない。一方で、24日は、日本モデルは東シナ海に低気圧を予想するが、海外モデルでは明瞭ではない。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。